説　教　　聖日礼拝　　北浜チャーチ

黒田　禎一郎

２０１９年９月１日（日）

主　　題：「へりくだりなさい」

　　－正しい人生計画―

テキスト：ヤコブの手紙４章１３～１７節

はじめに

・私たちはヤコブの手紙を学んでいます。今日の聖書箇所も、前回の続きのテーマです。すなわち、私たちの心の内から外へ表れる問題であります。

・著者ヤコブは、１３節で次のように言いました。

4:13 聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう。」と言う人たち。

・ここで、当時のユダヤ人たちの生活の一端を伺うことができます。ヤコブの時代、多数のユダヤ人たちがローマ帝国内に出て行って生活していました。使徒の働き２章には、ユダヤ教三大祭りのひとつである「五旬節の時に集まった人々について、次のように書かれています。

2:9 私たちは、パルテヤ人、メジヤ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポントとアジヤ、

2:10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者たち、また滞在中のローマ人たちで・・・・・

・すなわち、人々は当時の世界各地から集まりました。ここで初代教会時代にローマ帝国が支配した国々を見てみましょう。

（当時のローマ世界地図参照）

・商売に長けていたユダヤ人たちは、それらの地で商売を上手くやっていました。今でも約５５０万人（2014年現在）ものユダヤ人が、米国に住んでいますが、彼らが持っている財力は、アメリカの政治を左右できる力があります。

・一方、今の時代のビジネスマンはいかがでしょうか。ラップトップを抱え、スマートフォンと電子手帳を手に、分刻みで世界を駆け回っているビジネスマンがいます。ビジネスはグローバル化し、ローマ時代よりさらに広い世界がマーケット（市場）となっていますから、当然ビジネスマンは世界を駆け巡っています。そこで計画性をもって動いているのです。それによって社会は潤い、会社も個人も潤うならば、それは幸いなことです。

・当時のユダヤ人商人たちも、優秀な人物であったと思います。計画性に富み、自分が行動を始める時を、ちゃんと定めていました。ただ、やみくもにある町で商売するのではありませんでした。「そこに１年いて」と定めていました。しかも、ただ商売をしようというのではなく、商売するからには「もうける」ことを目標にしていました。それに従

って、行動にかかろうとしていました。彼らは漠然と行動に移ろうとしていたわけではありません。実に計画的な人物で、世の中では、そういう人は賢い人、成功者と呼びます。

・しかし、ヤコブはその彼らに向かい「聞きなさい」（ヤコブの手紙では２度）と警告を発しました。
皆さん！　注意してください。計画性が悪いのではありません。では、ヤコブは何を問題としたのでしょうか。それは人生の計画の立て方に問題がありました。そして、それが今日のテーマであります。２点

大切なポイント

１．勘違いの人生計画

１）人の命のはかなさ

4:14 あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現われて、それから消えてしまう霧にすぎません。

・私たちは人のいのちのはかなさは、普段あまり考えません。しかし、少し考えてみれば、私たちのいのちは限られたものであることが分かります。
もっとも大切な命について考えないなら、その方は勘違いの人生を過ごしておられるのです。イエスはある時、次のように言われました。
ルカの福音書１２章

12:13 群衆の中のひとりが、「先生。私と遺産を分けるように私の兄弟に話してください。」と言った。
12:14 すると彼に言われた。「いったいだれが、わたしをあなたがたの裁判官や調停者に任命したのですか。」
12:15 そして人々に言われた。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」
12:16 それから人々にたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作であった。
12:17 そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』
12:18 そして言った。『こうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。
12:19 そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。」』
12:20 しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』
12:21 自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。」

・この「たとえ話し」の説明は、もう不要でしょう。だれにもが分かる話しです。
聖書はまた、次のように教えています。　マタイの福音書６章

6:24 だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。

・私たちは、どのような人生計画を立てているでしょうか。
私たちは生涯で出来ることは限られています。昨日まで元気で顔を会わせていた人が、目の前から消えることがあります。もっと、もっと頑張って欲しいという方が、突然姿が見えなくなることもあります。

・私たちのいのちほど、大切なものはありません。なぜ、でしょうか？
それは、人生は一度しかないからです。そして死後の世界があるからです。
神は善であれ、悪であれ、裁かれるお方です。私たちは自由に生きているかも知れません。しかし、自由には責任が伴います。使徒の働き１７章は、次のように教えています。
17:28 私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。

２）何が問題か

4:15 むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」

・ヤコブが指している人たちは、実に有能で計画的な人物でしたが、その人たちには決定的に一つのことが欠けていました。
⇒　それは神に対する「畏れ」です。
言い換えれば、自分のいのちがいつ取られるかは分からないという認識がありませんでした。

・たとえ、どんなにこの地上で栄えていても、どんなに活力に満ちた大きな仕事をしていたとしても、そして今の歩みが思いどおりに進んでいたとしても、明日のことは、だれにも分かりません。
ヤコブは「「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」と言うべきと言いました。

・このことを理解し、私たちの命を握っておられる神を「畏れ」、神に「従う」生活を送っていないとき。それを聖書では「高ぶり」（高慢）と言います。
ヤコブは、高慢な姿勢を持つ人にはっきりと次のように断言しています。
4:16 ところがこのとおり、あなたがたはむなしい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶりは、すべて悪いことです。
4:17 こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行なわないなら、それはその人の罪です。

・皆さん。「なすべき正しいこと」とは何でしょうか。
⇒ 主である神の前に「へりくだる」ということです。
信仰の実践は、神の前に「へりくだる」ということです。ヤコブは、「へりくだる」ことをブロックさせるのは罪と言いました。人に親切にし、善を行うことの方が、ある意味では簡単かもしれません。ヤコブは、偉大な神の前に一人の人間として「へりくだる」ことの大切さ、そしてその幸いを説いています。それは、ヤコブは同胞ユダヤ人たちを

真に愛していたからです。

・では、私たちはどう生きるべきでしょうか。聖書は、私たちに正しい人生計画を立てることを教えています。

2．正しい人生計画を立てなさい

4:15 むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」

1）主のみこころなら

・「主のみこころなら」、」英語版聖書では，“If the Lord wills”となっています。Will という語は、話者の「意志」を表します。邦訳では「主のみこころなら」と訳され名訳であります。つまり神の意志が働き、お許しくださらなければ、何一つできないと聖書は教えています。

・では、「主のみこころ」を尋ねる計画はどんな人生でしょうか。

① 人の側からできることをする

私たちができる最善を行い、あとは神にお委ねする人生です。

そのためには　→ 計画を作り忠実に生きること

・ある時、イエスはペテロの質問に対し、食べ物を準備する（計画性）思慮深い管理人の話しをされたことがありました。ルカ福音書 12 章

12:42 主は言われた。「では、主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食べ物を与える忠実な思慮深い管理人とは、いったいだれでしょう。

・神は、計画性をもつ忠実な管理人を評価されるお方です。

＊「主のみこころ」を尋ねる計画はどんな人生でしょうか。

② 人の側からできないことは神に委ねること

→人は保障することはできませんから「主のみこころ」に委ねること

・人は大丈夫と言っても、それは絶対大丈夫ではありません。

神でない限り、安全の保証はあり得ないからです。全き保証（たとえば命）は、人の側からできません。そこで、神は最適な道を知り先導くださるお方と信じ、「主のみこころ」を信頼することです。すなわち、神にお委ねする人生です。

＊「主のみこころ」を尋ねる計画とは、どんな人生でしょうか。

③ 神の主権を信頼すること　　使徒 18 章

「主のみこころ」尋ねるとは、神の主権（すべてを支配する）を信頼することです。パウロは次のように言いました。

18:21 「神のみこころなら、またあなたがたのところに帰って来ます。」と言って別れを告げ、エペソから船出した。

・使徒パウロは、「神のみこころなら」と言いました。そこには主へのまったき信頼がありました。

＊このように「主のみこころ」に委ねて歩む人生は、神に信頼を置き、従順です。その

人は、神から祝福を受けることができます。「主のみこころ」に信頼し、主とともに歩む人生は天来の祝福に与ります。

2）神を人生計画に入れる祝福

・ヤコブは、私たちは主の前にへりくだる時、主がどう取り扱いくださるかと語っています。

① 神は恵みを与えてくださる

4:6 しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」

・神はへりくだる者に、恵みをお与えくださいます。
ここで、私たちは「へりくだり」と「恵み」に関係があることが分かります。
神は恵みを与えてくださいます。

・「恵み」（charis:カリス）の特徴：
（１）一方通行（神から人へ）
（２）平等に与えられる（差別はない）
（３）贈り物（ギフトでお返し不要）

・神は私たちの必要を知っておられます。そして「恵み」として、
それを与えたいと備えてくださっているのです。なんという幸いではありませんか。

＊主の前に「へりくだる」とき、主はさらに祝福を備えてくださいます。

② 神はあなたを高くしてくださる

4:10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。

・「へりくだり」は主によって「高くされること」です。
言うまでもなく、自分で自分を高めることではありません。また、人が私を高くしてくださること、でもありません。あの人はすばらしですね、などと言ってくださることとも違います。では、この世の中で有名人となることでしょうか。あるいはキリスト教界で大きく用いられることでしょうか。いいえ、そうではありません。

・主によって高くされる状態とは、自分が置かれた状況に関係ありません。　自分が今、これでよいのだと心の底からうなずくことができ、平安（シャローム）を覚えることができる状態のことです。

・皆さん。私たちはせっかく信仰を持っていても、他人の自分に対する態度、扱いで自分が高くされないと腹が立ったり、おもしろくなくなったりすることがあります。それで自ら自分を高めようとしたり、人から高くされること期待します。そういうことを気にしだすと、周囲の状況や人が気になってしまいます。そういう人生は、聖書が教える平安の世界とは、程遠いところを歩んでいるのです。

・ヤコブは当時のユダヤ人クリスチャンたちの中で、そのような人々を見たに違いありません。きっと心を痛めながら、この手紙を書いたことでしょう。

・聖書は、世間、あるいは教会内で、その人がどのように用いられているかで私たちを

評価してはいません。人から誉められ、高く評価されることではありません。

・私たちがここまで学んできましたように、神の恵みのゆえに、神の前に「へりくだる」ことができているならば、周囲がどんな状況であったとしても問題ではありません。人からどう見られようと、どう扱われようと、私は今の私でいいのだ、神はこんな私を愛して、今も心に留めてくださっているのだ、という不思議な平安(シャローム)が私の中にあるものです。それが、主が高くしてくださるということです。

・主の前で「へりくだり」を学んでいるならば、置かれた所で不満はありません。「いいえ、満足です。主がともにおられるからです。私は今、平安があります。主が私を愛してくださっているからです。」、と言えるのです。
それが主の前で「へりくだる」人の姿であります。

・神が私たちに望んでおられること、それは私たち一人一人が主の前で「へりくだる」ことです。主はそのような器に信頼と喜びを持たれ、働きを託してくださいます。牧師が主の前で、「へりくだる」ことができるようお祈りください。また、私も兄弟姉妹のためにお祈りさせていただきます。そのように、互いに執り成し合う関係こそ、真の兄弟姉妹です。

ま　と　め

主　　題：「へりくだりなさい」
　　－正しい人生計画―

・今日、私たちは主のお声を聞きました。それは主にあって、「へりくだりなさい」です。私たちの肉は、「へりくだり」とは正反対の姿勢を求めるものです。
その結果は、争い、批判、分裂、そしてストレスであります。

・しかし、神が私たちに願っておられる人生は、主の前に「へりくだる」ことです。では、どうすれば「へりくだる」祝福の人生（正しい人生）を送ることができるのでしょうか。

1．できる限りの最善を行うこと
2．できないことは神に委ねること
3．神の主権を信頼すること

＊ God bless you！

地　図：初代教会時代のローマ帝国

地図 24
聖パウロの第3次伝道旅行と
ローマへの旅
Copyright by C. S. HAMMOND & CO., N. Y.
0 50 100 200 300 マイル
0 50 100 200 300 400 500 km
第3次旅行
ローマへの旅
古い伝説では，パウロはローマへの旅の後，地中海世界を広く旅して回ったとある．
ローマへの旅の出発点
第3次伝道旅行の出発点
ローマ帝国国境
ローマ
オルトナ
トレス・タベルネ
ポテオリ
ネアポリス
ベネヴェントゥム
イタリヤ
ブルンディシウム
タレントゥム
アンクサ
ブクセントゥム
ティレニヤ海
クロトン
メッサナ
(メッシナ)
レギオン
シシリー
アグリゲントゥム
シラクサ
メリタ
(マルタ)
イルリコ
(ダルマテヤ)
スコトラ
モエシヤ
ディラキウム
マケドニヤ
テサロニカ
ベレヤ
アポロニヤ
アムピポリス
ピリピ
エペロス
ニコポリ
ラリサ
コルキラ
アカヤ
コリント
ケンクレヤ
(ギリシヤ)
アテネ
スパルタ
ヘブルス川
トラキヤ
ポントゥス・エウクシヌス
(黒 海)
メセンブリヤ
ヘラクレヤ・ポンティカ
ビザンティウム
ニコメディヤ
ブロポンティス
ニケヤ
ビテニヤ
サンガリウス川
アンキラ
ドリラウム
ペッシヌス
ガラテヤ
ロアス
アドラミテオ
ムシヤ
ベルガモ
テアテラ
アジヤ
小 アジヤ
スミルナ
サルデス
フィラデルフィヤ
エペソ
ルデヤ
ラオディケヤ
コロサイ
ヒエラポリス
ルカオニヤ
イコニオム
ルステラ
デルベ
ピシディヤ
パンフリヤ
ペルガ
アタリヤ
ルキヤ
ミラ
キリキヤ
タルソ
セルキヤ
アンテオケ
シリヤ
レスボス
キオス
サモス
キクラデス
カリヤ
コス
ロドス
クレテ
クノッソ
ラサイア
サルモネ岬
良い港
クラウダ
キプロス
サラミス
パポス
シドン
ツロ
トレマイ
ダマスコ
カイザリヤ
ヤッパ
エルサレム
ガザ
ユダヤ
ファロス
アレキサンドリヤ
カタバトムス
マルマリカ
リビヤ
エジプト
ヘリオポリス
メンピス
ペルシウム
アラビヤ
大 海
(地 中 海)
ポント
カパドキヤ
タッタ湖
ゲルマニカポリス
ポンペイオポリス
ヒエラポリス
ヒエラポリス